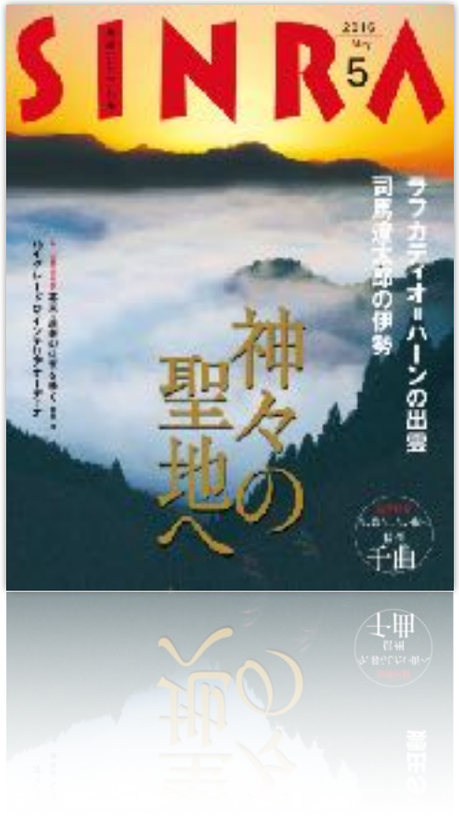
シンラの旅-11「幕末・維新の佐賀をゆく」

大海を越えた胡蝶の夢



エッセイ
芦原 伸

SINRA

CONTENTS

各見出しリンク

SINRA-1 2014.9
「小豆島」オリーブカントリー

SINRA-2 2014.11
「秋田」マタギの里へ

SINRA-3 2015.1
「富岡」富岡製糸場の歩き方

SINRA-4 2015.3
「北海道」北海道ワイン紀行

SINRA-5 2015.5
「小笠原」黒潮の孤島鵜来島漂流

SINRA-6 2015.7
「大台ケ原」熊野古道をいく

SINRA-7 2015.9
「信州木曽谷」森林鉄道が消えた日

SINRA-8 2015.11
「霊峰月山」死と再生の小宇宙

SINRA-9 2016.1
「丹後」古代王国と、絹をめぐる道

SINRA-10 2015.3
「秩父」絶滅危惧種再生へ、開ける道

SINRA-11 2016.5
「佐賀」大海を越えた胡蝶の夢

SINRA-12 2016.7
「津軽」ブラキストン幻の海

SINRA-13 2016.9
「五島列島」クジラたちの海

SINRA-14 2016.11
「飯田」天空の里、遠山郷

SINRA-15 2017.1
「北海道」ジンギスカンをめぐる冒険

SINRA-16 2017.3
「宮城県」猫たちの聖地

SINRA-17 2017.5
「京都」神が授けた、いのちの水

SINRA-18 2017.7
「熊楠」の森をめぐる冒険

SINRA-19 2017.9
「カナダ」極北の大地に生命が燃える

SINRA-20 2017.11
「宮崎」神楽仮面の謎を探る

ご購入 Fujisan.co.jp

ご購入 amazon.co.jp プライム

近代化の
トップランナー
佐賀藩物語

幕末・維新の佐賀をゆく

大海を越えた胡蝶の夢

外国の波が押し寄せ、
激動の時代を迎えた幕末・明治の日本。
海外の新しい知識や技術が国内へと流入してくる中、
いち早くそれらを自分たちの国づくりに取り入れ、
近代化のトップランナーとなったのは九州・佐賀藩だった。
その柔軟にして大胆な開拓精神とはいかにして培われたのか。
佐賀の近代化産業遺産を巡りながら、その答えを探る。

文◉芦原 伸（ノンフィクション作家）撮影／戸川 覚　協力／佐賀県

「灘越蝶文」（なだごしちょうもん）と呼ばれる文様が描かれた肥前磁器。荒波の上を軽やかに舞う蝶の群れは、激動の時代を越えていこうとする佐賀藩の精神性を象徴している

POSTED CERTIFICATE
SINRA by TEMJIN PUBLICATION ADMINISTRATION & EDITORIAL TEMJIN PUBLICATION ADMINISTRATION

TOP

ADVERTISEMENT & EDITORIAL TEMJIN PUBLICATION ADMINISTRATION
POSTED CERTIFICATE
SINRA
Approved by
天夢人

佐賀県南西部を流れる塩田川。干潮時は係留している船が倒れないようコンポーズ（支柱）が支える。干潟上に並ぶ無数の船の姿は佐賀の馴染みの風景だ

日本の近代化は佐賀からはじまった

ここに一枚の絵がある。

羽織、袴、ちょん髷姿の武士がかしこまって居並び、一点を凝視している。その多くの目線の先にあるのは、模型の蒸気機関車だった。広い敷地の中央を木製の蒸気機関車が走っているのだ。

１８５５（安政２）年、日本ではじめて蒸気機関車の雛形が佐賀藩精煉方（理化学研究所）の庭で走った。〝汽笛一声〟、日本の鉄道の開業は、72（明治５）年、新橋―横浜間を走ったが、その淵源を佐賀藩に見出すことができる。佐賀藩ではそれより17年も前に蒸気機関で走る機関車の模型を走らせていた。

ほぼ同時期、53（嘉永６）年、ペリー艦隊が浦賀沖に現れた。いわゆる〝黒船事件〟である。ペリーはアメリカ大統領の開港要求の国書を幕府に渡し、翌年ふたたび来ることを伝え、立ち去った。慌てたのは幕府だったが、時の老中・阿部正弘は鉄製大砲２００門の製造を佐賀藩に打診した。藩主・鍋島直正はそれを受諾し、最終的に50門を納品することを約束した。

―肥前佐賀三五万七〇〇〇石の外様大藩鍋島家は、ペリー来航以前から実用に耐える鉄製大砲を自力で製造し配備している唯一つの藩だった。

（毛利利彦『幕末維新と佐賀藩』中公新書）

長らく鎖国を続けてきた日本が西洋列強の脅威に晒された。日本はにわかに危機感をつのらせ、攘夷か、開国かで揺らいだが、多くの者は列強の真の力を知らないでいた。

西洋文明の力の象徴とは蒸気機関と鉄製大砲だった。

イギリスで発明された蒸気機関は産業革命を起こし、世界へと製品を輸出し、広大な植民地を手に入れた。鉄製大砲は他国に門戸を開かせる強力な脅しの武器となった。

船についていえば、それまでの日本はせいぜい千石船（帆船）しかなく、風まかせ潮まかせ、日本海を蝦夷地から大阪まで航海するには２、３カ月もかかっていた。一方、列強の操る蒸気船は自力で太平洋を渡り、南シナ海を越えて、日本に着くことが可能だった。

航海術においては赤児と大人くらいの差があった。大砲とて当時の日本は銅製大砲を使用していた。

大海を自由に走れる蒸気船と、品川沖から江戸城まで届く砲弾の脅威を知らぬまま「天下泰平」の夢をむ

佐賀県

YouTube JP

佐賀
ダイジェスト

このまちで、
あなたと

武雄温泉

伊万里有田焼

佐賀の魅力を発見しよう
ぶらり佐賀 寄り道ガイド

佐賀を訪れたら
ぜひ寄っておきたい
おすすめスポットを厳選紹介。
有明海の幸、肥前の工芸品など、
佐賀の魅力に迫る

海鮮居酒屋
第一三吉丸（さんきちまる）
地元の食べ方で味わう

JR長崎本線佐賀駅から徒歩4分の距離にある「第一三吉丸」は有明海の幸が堪能できる佐賀の郷土料理店。有明海といえばムツゴロウやワラスボといった珍魚が有名だが、その他、噛めば噛むほど旨味の出るウミタケの一夜干し、やわらかくふっくらした食感が味わえるクチゾコの煮付け、さらに白石町の郷土料理・須古寿司など、佐賀の味覚がとことん楽しめる。「ムツゴロウの煮付けは、頭は食えないけど、チュっと吸うと滋味深い汁が味わえるんですよ」と店主の南川久則さん（60）。地元の食べ方を伝授してくれた。

上／クチゾコの煮付け（右上）、ムツゴロウの煮付け（左上）、ウミタケの一夜干し（左下）、ワラスボの醤油漬け（中下）、ガニ漬け（シオマネキ）（中）、須古寿司（右下）　中／ワラスボの一夜干し　下／店主の南川久則さん

住 佐賀市神野東2-4-56
☎ 0952-33-5334
営 11:30-14:00、17:00-24:00（L.O.23:30）
休 第1・3日曜

風がささやく離れの宿
山あかり
名湯に心癒される

「山あかり」は斎藤茂吉をはじめとする文人墨客が訪れた湯治場として知られる古湯温泉街の温泉宿。全6室の客室はすべて露天風呂付き離れで、周囲を気にせずゆったりと過ごすことができる。食事は地元食材を使用した郷土料理。全国トップクラスの牛肉として知られる佐賀牛の炭火焼きや、かまどで炊いた富士町特産「ひのひかり」などが半個室の掘りごたつで楽しめる。バイキング形式で用意されている種類豊富な手づくりおばんざいも嬉しい。お洒落な和空間でありながら家庭的な雰囲気も漂う、心休まる宿。

右上／佐賀牛炭火焼（左）と有明海で獲れた貝柱とタイの刺身（右）　中／10種を超えるおばんざいを用意　左下／和モダンテイストの外観

住 佐賀市富士町古湯792-1
☎ 0952-58-2106
営 11:00～20:00（日帰り入浴）
料 800円（日帰り入浴）、21,000円～（1泊2食付）＋入湯税150円

ものづくりカフェ
こねくり家
カフェでものづくり体験

「こねくり家」は佐賀市柳井町の旧久富家住宅をリノベーションしてつくられた古民家カフェ。無農薬野菜を使った汁三菜ランチや、からあげランチが人気メニューだ。有田焼ブランドKIHARAの洗練された器も魅力的。店のコンセプトは「ものづくり」と「IT」の融合。カフェのほか、訪れた人たちにワークショップや個展などイベントを楽しんでもらうクリエイティブスペースとしても活用している。3Dプリンターや人型ロボットpepperなど最新機器を気軽に使うことができ、佐賀の新たな文化を創作する拠点となっている。

上／店主の平川陽一さん　中／人気メニューのからあげランチ（700円）　下／店は歴史ある町並みが続く長崎街道沿いに立っている

住 佐賀市柳町4-16（旧久富家住宅）
☎ 0952-37-6905
営 11:00-22:00（ショップ／日・祝18:00閉店）、11:30-15:00（ランチ）、11:00-17:30（カフェ）、18:00-21:00（夜カフェ／日・祝以外）
休 月曜・毎月最終火曜

手作り吹きガラス工房
肥前びーどろ
吹きガラスの美に触れる

「肥前びーどろ」はポルトガル語でガラスを意味する「Vidro」に由来する。1852（嘉永5）年に鍋島直正が設置し、理化学研究の一環としてガラス製品をつくっていた精煉方が、明治に入ると民間会社となり、そこから1903（明治36）年に副島硝子工業として独立。現在も300種を超えるコップ、鉢、ワイングラスなどのガラス製品を製造する老舗工房として伝統を継承し続けている。「ジャッパン吹き」と呼ばれる日本独自の技法を駆使してつくられる肥前びーどろはなめらかな肌合い、美しい表面、光沢感が最大の特徴。佐賀の歴史を物語る伝統工芸品として親しまれている。

上／3代目社長の副島太郎さん。手にしているのは独特の藍色が特徴の「肥前かんびん」　下／ネットストアのほか、副島硝子工業の直売所でも肥前びーどろ製品が購入できる

住 佐賀市道祖元町106
☎ 0952-24-4211
営 9:00-18:00
休 土曜、日曜

POSTED CERTIFICATE SINRA approved by 大手人 EDITORIAL, TEMJIN PUBLICATION ADMINISTRATION